

# 豊田市都心部再生計画の提案

1G00J0322 笹沢 信也\*

Shinya Sasazawa

地方都市の中心市街地の衰退化が大きな問題となって久しい。この問題は人口減少、市街地拡大・郊外化、産業の空洞化に伴う税金・財源不足と都市機能の低下等様々な問題と密接しており、大都市圏とは異なる視点で中心市街地問題を検討し、対策を立てる必要がある。

そこで本研究では、名古屋都市圏の中核都市の一つである豊田市の中心市街地を対象に、地域の特性を生かした街区デザインを提案する。

**Key Words** : 都市再生、街区、水と緑のネットワーク

## 1. 背景、目的

小泉内閣発足以来、「都市再生」ということばがクローズアップされるようになった。「都市再生」と聞くと、丸ビル、汐留の「シオサイト」、六本木ヒルズなどの大規模再開発プロジェクトを思い浮かべる人が少なくないであろう。しかし、それらの大規模再開発プロジェクトは周囲の環境との関係性が希薄で、その空間の中だけで自己完結しているような印象を受ける。言ってみれば、テーマパークのような感じである。よって、周囲のまちなみまで再生されたとは言い難い。これらのスポット型の都市開発では周囲の街まで再生することは難しいように思われる。

そこで本研究は、名古屋都市圏の中核都市の一つである豊田市の中心市街地を対象に、スポット型の再開発ではなく、地域の特性を生かしたまちの新しいイメージを提案する。なお、提案は現行の制度の下での実現可能性を重視するのではなく、市民がまちの魅力や問題点を再認識し、まちの新しい目標イメージを共有する際の一助となることを目的としている。ワークショップ等による住民との議論の場を設けるなどして、この提案をきっかけとした豊田市の新しいまちの将来像につながる活動を目指している。

## 2. 都市再生の現状

平成 13 年に都市再生本部が設置されて以来、都市再生プロジェクトなど様々な活動が推進されてきた。しかし、都市再生緊急整備地域の指定を見ても、どうしても大都市中心の都市再生という印象を受ける。

一方、地方都市は人口の減少・大型店の郊外化に伴い中心市街地の衰退化が進行している。都市再生本部は平成 14 年になって、「全国都市再生のための緊急措置～稚内から石垣まで～」と題し全国の都市から提案を募るなど地方に目を向け始めている。地方分権化が

進むであろう今後は、地方都市の自立的な再生がよりいっそう望まれることになると考えられる。

## 3. 豊田市の概要

### 3.1 豊田市中心市街地の概要

豊田市は愛知県の中央部、名古屋市の東方約 30 km に位置し、矢作川が市域を南北に貫流している。自動車産業の発展により、全国有数の工業都市に成長し、現在、面積 290.12km<sup>2</sup>、人口 357,849 人 (H15.11.1 現在) で名古屋市、豊橋市に次いで愛知県内 3 位の人口を有する中核都市である。

豊田市は中心市街地を「緑の文化環境軸」に位置づけ、中心市街地にふさわしい条件を備えた豊田市駅周辺地区としている。また、区域は豊田市駅を中心とし、北は平芝線、南は初陣線、東は矢作川、西は枝下用水に囲まれた 210ha と設定している。

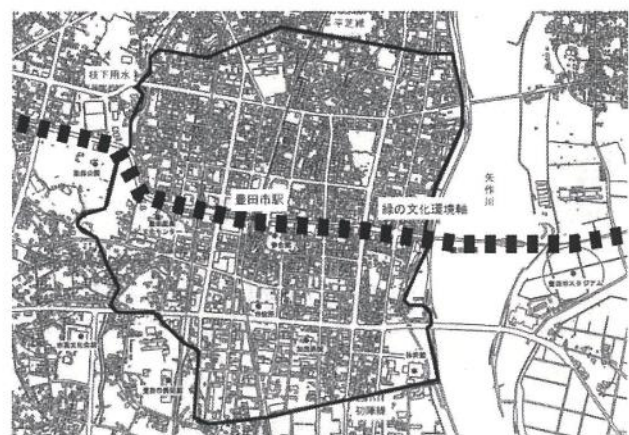


図 3.1 豊田市中心市街地の位置、区域

### 3.2 豊田市の計画

豊田市は「豊田市都市マスタープラン」(平成 7 年)を策定し、都市の魅力、個性・文化・スポーツ・生活環境などの生活アメニティを優先する都市づくりを進



めている。また、「豊田市中心市街地活性化基本計画」を「まちづくり交通計画」「中心市街地土地利用計画」をもとに策定し、中心市街地の活性化に向けた指針を示している。

まちづくり交通計画、中心市街地土地利用計画、さらに、実施が決定している豊田市駅前駅前通り再開発南地区事業について表 3.1 にまとめる。

### 3.3 現地調査

実際に豊田市中心市街地を実際に歩き、自然・商業・歴史・景観という観点から現状を評価した。

#### (1) 水や緑などの自然資源

豊田市には矢作川、猿投山、王滝渓谷など郊外部に美しい自然が多く残っている。しかし、中心市街地内にも規模は小さいが水や緑がいくつか存在する。児ノ口公園、五六川、安永川、初陣川、若宮・西町緑陰歩道がそれである。

児ノ口公園は暗渠になっていた五六川を地上に再生し、ピオトープなどを整備した近自然型公園である。都市部に緑を再生した点、また公園の維持・管理を地域住民が中心となって行われている点など高く評価できる。しかし、五六川が近自然化されたのは児ノ口公園内だけであり、他の地域では暗渠化されているか、狭隘な空間になっている。

若宮・西町緑陰歩道は名鉄三河線連続立体交差事業に伴い設けられた歩行者専用道路である。自然が後退した都心部に緑やせせらぎを復活させ、アメニティ向上に貢献するだけでなく官公署や文化、福祉の諸施設を結ぶ歩行者道路としても重要な役割を担っている。しかし、プロムナードとしては機能しているが、周囲環境は未整備のまま、周囲にまで好影響を及ぼして

いるとはいえない。

豊田市の中心市街地を流れる安永川、初陣川は家庭から排出される生活廃水などが原因で劣悪な水環境になっている。地域住民が休養や散歩する空間もなければ、生物が生息できる空間もない。全体的に“汚い、暗い、あじけない”といった印象で、狭隘な空間である。

現段階では良し悪しはあるにせよ、生かし方によっては良好なまちなみを形成できる資源が多くある。



図 3.2 児ノ口公園



図 3.3 安永川

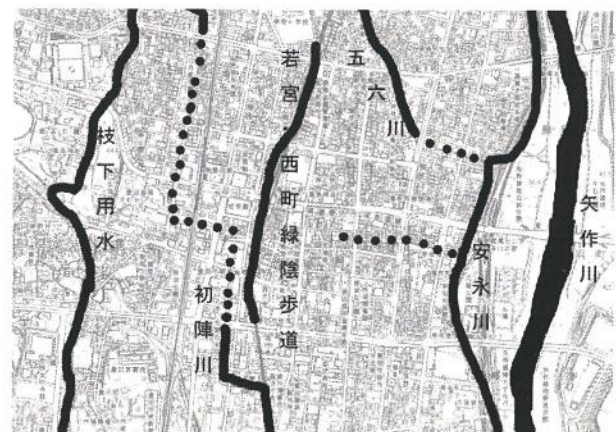

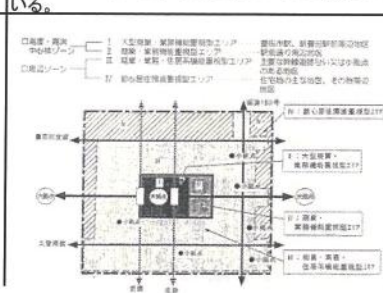



図 3.4 豊田市中心市街地を流れる河川と水路

#### (2) 商業

豊田市駅周辺には大型商業施設が一極集中していることもあり、線的・点的な集積にとどまっている。ま

表 3.1 中心市街地における計画、事業の概要 2) 5)

中心市街地における計画、事業	まちづくり交通計画	中心市街地土地利用計画	豊田市駅前再開事業 (南地区)
計画、事業のテーマ	「人と車が共存する、歩いて楽しい回遊空間と快適性をもつまち」	「暮らしが巡るまちづくり」	昼夜間人口の拡大と中心市街地の活性化
概要	月見線、豊田多治見線、東郷豊田線、西山上学母線に囲まれたエリアをゾーンシステム、歩行者優先ゾーンとし、6つのセルから構成し、各セル内は一方通行等の規制を行うこととしている。	中心市街地の土地利用について、高度・高次中心核ゾーンと周辺ゾーンの2つのゾーンに設定している。そのうち、高度・高次中心核ゾーンは、大型商業・業務機能重視型エリアと商業・業務機能重視型エリア、周辺ゾーンは、商業・業務・住居系機能重視型エリア、都心居住環境重視型エリアと設定している。	駅周辺における交流拠点を整備するとともに商業施設、業務施設、住宅、駐車場を有した多機能複合型施設を整備し、中心市街地の活性化を目的としている。施設建築物の容積率は400~500%である。
概略図			



た、中心市街地内には幹線道路沿いを中心に12の商店街が存在するがいずれも店舗数はそれほど多くなく点在している。また、高齢化の進展とともに、後継者のいない商業者、商売としての発展に前向きではない商業者等もでてきている。商店数も減少しており、弱体化が進みつつある。回遊性を有した面的な賑わい空間の創出の形成に至っていないというのが現状である。

### (3) 歴史

中心市街地内にはそれほど規模は大きくないが数多くの寺社や歴史的建造物が点在する。しかし、それらを散策するプロムナードなどが整備されておらず、それらの存在を強く感じるということもない。また、寺社に隣接して高層の建物が立地しているなど配慮が欠けているという印象を受ける。

### (4) 景観

豊田市は幹線道路を中心に電線地中化に取り組んでいて現段階では十分とはいえないが少なからず景観にも配慮がうかがえる。しかし、駐車場が多い、マンションなどの高層の建物が不揃いに点在している、また、寺社に隣接して立地している、東西方向のメインストリートである停車場線の歩道が狭いなど問題も数多い。

## 3.4 評価

ここで、資料の整理、現地調査を通じて豊田市の現状・方向性を評価する。

中心市街地を活性化し、賑わいと魅力のある都市にするためにも、現状の点的・線的なまちなみから面的なまちなみへと再編し、回遊性を確保することが必要であると考えられる。その際、中心市街地の特徴である水や緑を上手に活用して歩行者ネットワークを構築することが望ましい。

これらの目標から見ても、『人とクルマの共生』をテーマにした都心地区の交通計画の方向性は妥当といえる。歩行者優先ゾーンを構築することで、安全で快適な歩行空間を形成できる。

また、中心市街地土地利用計画のコンセプトも大筋では良しであろう。都心居住の促進もコンパクトシティ、環境負荷の観点から妥当といえる。ただ、電線を地中化するなど景観に配慮する動きが見られる一方、寺社をはじめとする歴史的建造物の直近に高層の商業・業務集積を建設するなど周囲環境との関係性を軽視している、また、マンションなどの高層の建物が無計画に点在しているなど納得がいかない点も残る。表3.1でまとめた駅前再開発南地区事業も商業・業務等の都心機能を強く志向するあまりその傾向が強い。また、これと同様の再開発を続けて行うことは経済面から考

えても到底不可能であり、回遊性が生まれるのは難しいと思われる。

## 4. 手順の検討

ここで、地方都市中心部再生提案の手順を明らかにする。まず前提条件として、周囲環境との関係性、コンパクトなコミュニティ形成、市街地空間の永続性、文化・自然資産の保全、環境負荷の低減、アーバンデザインなどを重視した都市構造を理想としている。このようなコンパクト、サステイナブルといった方向性はニューアーバニズムやアーバンビレッジなどの海外の都市再生コンセプトと共通しており、地方都市を再生させるのに適したコンセプトであると考えられる。

次に、対象地域である豊田市について既存の計画や現地調査を通して豊田市中心市街地の現状・方向性の評価を行った。そこで得られた中心市街地が抱える課題を改善するためのマスタープランを2通り(図5.1、図5.2)作成した。2つのプランを重ねあわせ調整し、具体的に地区を選定し街区単位での検討を行った。

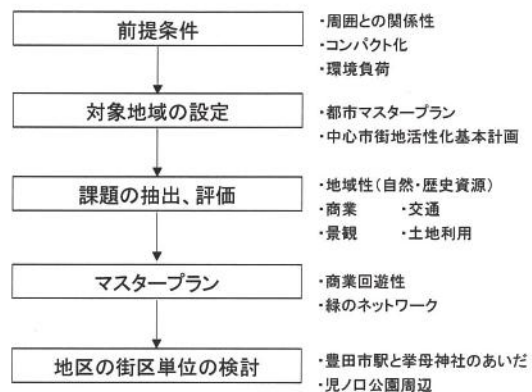


図 4.1 提案の手順

## 5. 提案

### 5.1 提案のコンセプト

豊田市が2003年の5月～6月にかけて実施した「市民意識調査」<sup>1)</sup>で、豊田市の好きなところのトップは、「緑が多く、自然環境に恵まれている」、嫌いなところのトップは「交通の便が悪い」となっている。それに加え、「都市としての個性や魅力がない」、「活気にぎわいが無い」といった項目が上位にあげられている。この結果は、豊田市駅周辺に連担した商業集積が形成されているものの、全体としては線的・点的であり、回遊性に乏しいといったことが原因であると考えられる。豊田市中心市街地の特徴である「水」と「緑」を基軸とした界限性のある商業回遊空間、散策空間、居住空間の整備が必要であると考えられる。地区としての再生像として、「水と緑のネットワーク」の形成を提案する。



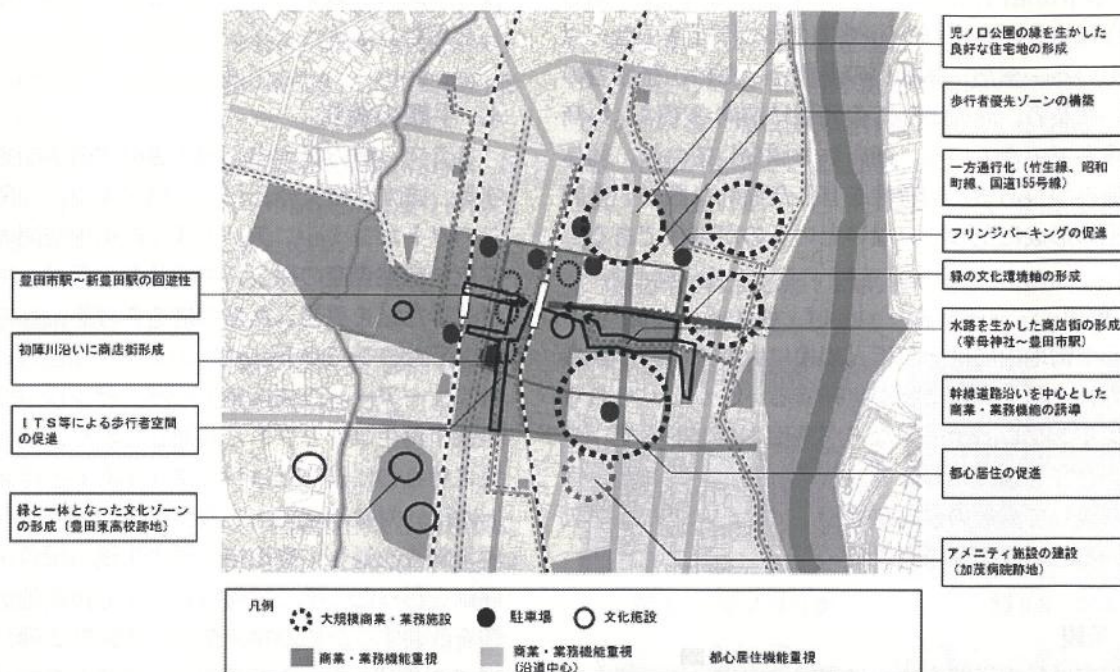


図 5.1 商業回遊性の観点からみたマスタープラン



図 5.2 緑ネットワークの観点からみたマスタープラン

## 5.2 マスタープラン

中心市街地のマスタープランを2パターン描いた。図 5.1 は商業回遊性の観点からみたプランである。図 5.2 は中心市街地内に緑の拠点をいくつかつくり、それをネットワーク化することで回遊性を生み出そうとしたプランである。

## 5.3 地区デザイン

次に、具体的に地区デザインの提案を行う。整備する場所は、「豊田市駅と挙母神社のあいだ」と「児ノ口公園周辺」とする。(5, 6 ページに掲載)

## 6. まとめ

豊田市の政策と現状を評価し、中心市街地のデザイン提案を行った。これをさらに洗練させること、これを評価・分析することを今後の課題とする。



## 豊田市駅と拳母神社のあいだ

### 現状

現在の豊田市駅周辺には大型店が集積しているものの、線的・点的であり回遊性に乏しい。また、中心市街地内には数多くの商店街があるものの賑わいがあるとは言いえない。この地域は駅前通り再開発南地区があり、そこで予定されている整備も点的な開発で回遊性が生まれることは期待できない。

また、この地域には元来、水路が存在した。しかし、その水路は暗渠化されてしまい、その顔を見ることはできない。そこで、その水路を地上に再生しそれを生かした提案を行う。

### イメージ1 「商店が緑道の両岸に並ぶ都市河川のデザイン提案」

#### コンセプト

水路を地上に再生し歩行者専用の水路プロムナードを整備する。その両岸に大型店舗とは異なる商店を並べ、駅から拳母神社にかけての回遊性を生み出し賑わい空間を創出する。



街区図

0 20 40 60 単位: 10m

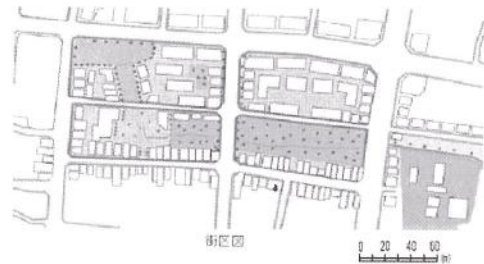


ゾーニング図

### イメージ2 「都市内の緑ネットワーク拠点のデザイン提案」

#### コンセプト

中心市街地には児ノ口公園、拳母神社といった緑の拠点がある。さらに駅周辺にまで緑の拠点を拡大し、駅から拳母神社、さらには、駅から児ノ口公園にかけて緑のプロムナードを整備する。せせらぎ水路やビオトープ



街区図

0 20 40 60 単位: 10m

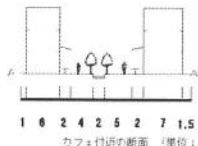


ゾーニング図

#### <回遊ゾーン>

##### 商店街

駅周辺から拳母神社にかけて大型店舗とは異なる個性的な商店を緑道に表を向けて並べる。駅に近い街区ではオープンカフェなどを配置する。電線は地中化し、建物の高さも三階までに抑え、ヒューマンスケールなまちなみにする。



1 0 2 4 2 5 2 7 1.5  
カフェ付店の断面 (単位: 1m)

##### 溜まり場

緑道沿いに買い物客や住民の憩いの場としてポケットパークを設置する。木陰が出来るような大きめの木を配置し、その下にベンチを設置する。



#### <交流拠点>

##### 公園・広場

都心部の賑わいの場、地域イベント等の交流地点となる広場を整備する。河川の末端をせせらぎ空間とし、やすらぎの空間を演出する。



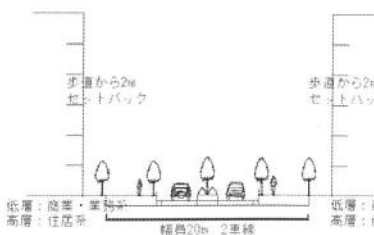
#### <業務・住宅ゾーン>

##### 県道沿いの建物

豊田市における東西に延びる県道沿いには高層の建物(6階建て)を建てる。低層部(1~3階)を商業・業務スペース、高層部(4~6階)を住宅にする。

##### 住宅

各種の都市機能が利用可能な地域であるので、高層のマンション(5階)やタウンハウス(3階)など都心居住を促進するような住宅を配置する。



歩道から2m セットバック

歩道から2m セットバック

低層: 商業・業務  
高層: 住居系

低層: 商業・業務  
高層: 住居系

幅員20m 2車線

#### <生態ゾーン>

##### ビオトープ公園

拳母神社の緑を拡張しビオトープ公園とし、緑のネットワークの拠点とする。公園一帯では、子どもたちが水に親しみながら、自然を学ぶことができる。また、ビオトープ水路沿いの道を蛇行させ、より自然に近い遊歩道にする。歩きながら変化する景観を生み出す。



#### <交流拠点>

##### 広場

水路の終わりを池にし、広場を設置する。子供たちが直接水にふれあい、水遊びができる場、また、大人が休憩・語らうことのできる場とする。



#### 幅広い緑の遊歩道

駅前の街区にまで拳母神社の緑を延長し、歩行者専用の幅広い遊歩道(幅員10m)を設置する。やすらぎと落ち着きを与える空間を提供する。



#### <業務・住宅ゾーン>

##### 県道沿いの建物

豊田市における東西に延びる県道沿いには高層の建物(6階建て)を建てる。低層部(1~3階)を商業・業務スペース、高層部(4~6階)を住宅にする。

##### 住宅

各種の都市機能が利用可能な地域であるので都心居住を促進するような住宅を配置する。また、ビオトープ公園でオープンスペースを多くとる分、この街区内は容積率を大きくとる。高層のマンション(5、6階)を配置する。

#### <商業回遊ゾーン>

##### 商店街

既存の商店街を残しつつ、低賃料での新たなテナントの入居を可能にし若者などのチャレンジを促進し商店街の魅力を復活させる。

##### 道路

商店街における歩行者の流れを阻害されないために、また、安全を確保するために南北に走る竹生線を一方通行化する。また、生態空間の緑を竹生線・豊田多治見線(国道153号線)に拡張し、南北方向に緑の軸を形成する。

歩道から1.5m セットバック

歩道から1.5m セットバック

商業・業務系

商業・業務系

歩道5mに拡張

歩道5mに拡張

幅員16m 1車線

児ノロ公園周辺

現状

この地区は、豊田市駅から徒歩15分程度にある住宅地区で、直近に先に説明した児ノロ公園という自然型公園がある。竹生線沿道には店舗併用住宅がある。豊田市からも近く、各種都市機能の利用が容易のため人口増加が期待されている。そのため、都心居住を促進するための良好な居住空間を配置する必要がある。そこで、この住宅地区には児ノロ公園の自然を活かした潤い豊かな居住空間を提案する

前提条件

街区の外枠は変更しないが、細かな街区、敷地、建物は変更する。またそれに合わせ、街路の役割も変更する。

イメージ1「児ノロ公園周辺の緑を  
共用の中庭に取りこむ集合住宅のデザイン提案」

コンセプト

イメージ1は、集合住宅（3～5階）を多く配置し、都心居住を促進する。様々な人が暮らせるように様々なタイプのマンションにする。集合住宅内にセミパブリックな緑プロムナードやポケットパークを整備する。沿道には店舗併用住宅や共同住宅などを配置する。



建物

集合住宅（3～5階）を多く配置し、都心居住を促進する。一人暮らしの学生から家庭を持つ社会人、高齢の夫婦まで様々な人が暮らせるように様々なタイプのマンションにする。

沿道

竹生線、月見線沿いには商業・業務施設などを中心に配置する。一部共同住宅を含む。

プロムナード

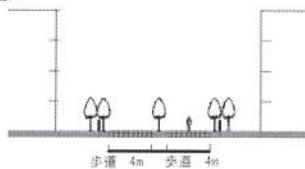
集合住宅内にセミパブリックな緑プロムナードを南北方向に整備する。そこを抜けると児ノロ公園にたどり着くようにする。

共用の中庭

児ノロ公園の緑を集合住宅の共用の中庭に取りこむことで、自然林のある集合住宅を形成する。住宅に囲まれた共用の中庭は日当たりや風通しを生み出し、住民の集いの場になる。

ポケットパーク

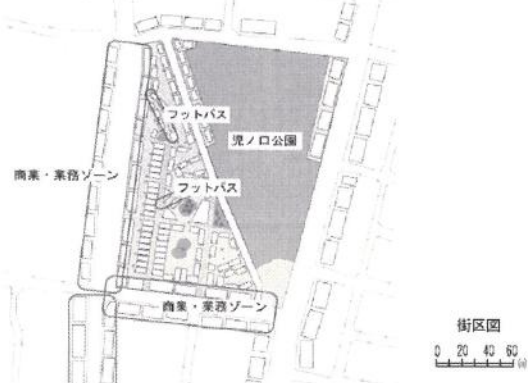
セミパブリックなプロムナードの途中に住民や緑・歴史的建造物を散策する人たちが休憩・語らいができるようなポケットパークを整備する。



イメージ2「フットパスなどの散策空間を有した  
居住空間のデザイン提案」

コンセプト

イメージ2はイメージ1より建物の階数を抑えヒューマンスケールな居住空間を形成する。歩行者専用のフットパスなどを整備し、歩行者が散策して楽しめるようにする。また、3階のメゾネットタイプのタウンハウスを多く配置し、都心居住を促進する。沿道には店舗併用住宅や共同住宅を配置する。



建物

集合住宅と戸建住宅の良さをあわせもつタウンハウスを多く配置し、都心居住を促進する。各住戸を3階のメゾネットタイプとする。プライベートをしっかりと守りながら安心してコミュニティを築ける。安全かつ快適な居住空間を形成する。

沿道

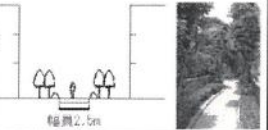
竹生線、月見線沿いには商業・業務施設などを中心に配置する。一部共同住宅を含む。

共用の中庭

住宅に囲まれた共用の中庭は日当たりや風通しを生み出し、住民の集いの場になる。エントランスゲートにより居住者以外の出入りは少なく、タウンハウスに暮らす方々のコミュニティ一広場、また子供の遊び場となる。

フットパス

幅2.5mほどの歩行者専用フットパスを設ける。みちを曲線にして奥まで見渡せないようにし、シークエンシャルな景観にする。フットパス沿いに緑を多く配置し、ヒューマンスケールの散策路を構築する。



参考文献

- 1) 豊田市役所ホームページ <http://www.city.toyota.aichi.jp/>
- 2) 豊田市：豊田市中心市街地活性化基本計画 2002 改訂
- 3) 豊田市：豊田市都市マスタープラン 1995
- 4) 豊田市：都心整備のあらまし 2003
- 5) 豊田市駅前通り南地区市街地再開発組合：豊田市駅前通り南地区第一種市街地再開発事業 2003
- 6) 豊田市都市整備部都市計画課：中心市街地活性化に向けた整備事業の検討及び概要図の作成
- 7) 首相官邸ホームページ <http://www.kantei.go.jp/jp/singi/tosisaisei/>
- 8) 土木学会：水辺の景観設計、技報堂出版株式会社 1985
- 9) 土木学会：街路の景観設計、技報堂出版株式会社 1988
- 10) 景観デザイン研究会：河川空間のデザイン 2001
- 11) 景観デザイン研究会：戸建て住宅地の景観デザイン 1995

- 12) 景観デザイン研究会：街並み景観と道の折れ曲がり効果 2001
- 13) 日本建築学会編：建築設計資料集成 [総合編]、丸善 2001
- 14) 崇化館ホームページ <http://www.hm3.aitai.ne.jp/~ph10/>
- 15) 株式会社プロセスアーキテクチャ：JAPAN LANDSCAPE 第38号 1996 pp. 22
- 16) 社会法人 住宅生産団体連合会ホームページ <http://sumai.judanren.or.jp/town/japan/>
- 17) 足利川頭首工農村公園ホームページ <http://www.city.fukui.fukui.jp/vision/nouson/toshuko/>
- 18) 親水公園研究所ホームページ <http://homepage2.nifty.com/sotarot/>
- 19) <http://www.din.or.jp/~stronger/ja/course.htm>
- 20) A-KOBO CAD 無料添景図集 <http://www.mediawars.ne.jp/~alkobo/>